

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

総合的な学習の時間研究室

1. 単元名「わが町 K やさしさ発見」

2. 目標

- 疑似体験を通して障がいのある人の願いや思いを知ろうとする。
- 情報収集、まとめ、発表を通して学び方を知る。
- Kの町のやさしいところをいろいろな人の立場から考えることができる。
- やさしさを調べることを通して、Kの町に愛着を持つことができる。

3. 指導観

- 本学級の児童は、国語科の教材「伝え合うということ」で点字について学習し、点字が目の不自由な人にとっていかに便利で大切なものかをつかんでいる。

しかし、児童は目の不自由な人など障がいのある人との関わりはあまりない。年に一度地域に住む養護学校に通っている児童との交流はあるが、その児童の立場に立って物事を考えるということはありません。また、学校内のスロープや車椅子用トイレなどの施設、地域のバリアフリーについて学習したことはほとんどなく、日常的にもそれらの施設について関心を持つこともなかった。

児童は、3年生の総合的な学習の時間を通して、調べることやまとめ発表することを学んできている。3年生での調べ学習では主にインタビューしたり実際に見学に行ったりしてきた。そして、学習した内容を模造紙やパンフレットにまとめることはだいぶ上達しているが、発表はまとめた文字を追って読むだけにとどまっていた。

また、1学期単元「3R大作戦」の学校での「ストローを使わない」という取り組みはまだ2学期も継続しており、数名の児童は家庭でもごみ減量に取り組んでいるようで時々それを報告してくれる。このことから、学習したことがその後の生活に生かされていることと、数名生かそうと意識していることが分かる。

- 児童をとりまく社会には、様々な人が生活している。周りの人々の考えや生き方に関心を持ち始めたこの時期に、障がいがある人やお年寄りとおふれ合う体験は、他人を思う心や他人の痛みを感じる心などの共に生きるための豊かな人間性や社会性を培うことができる大切な学習だと考える。

また、児童自身が自分の生活している地域に「やさしさ」という視点に関心を持つことにより、地域のよさを今以上に知ることができ、地域に愛着をもつことができると考えた。障がいがある人にとって、お年寄りにとって、子ども達にとってもやさしい町だということが再認識できる学習だと考えた。

- **児童の意欲を持続させるために**、であう段階とつかむ段階において、次の4つの手立てをとる。
一つ目は、であう段階において国語科の学習を想起させる。国語科で学んだことを想起させることにより、児童が興味をもった点字についてこれからさらに学習していくのだという意欲を持たせることができる。国語科の学習では点字についてもっと知りたいという段階で学習を終えているので、児童の興味を持続させることができると考えた。(手立て1—①)

二つ目は、であう段階においてウェビングの手法を用いて学習前の児童の障がいに対する認識や

町が人にとってやさしいとはどのようなことなのかを引き出す。それによって、今後の学習内容の方向性を児童につかませることができると考えた。(手立て1-②)

三つ目は、疑似体験をさせることである。疑似体験をさせることにより、目の不自由な人や足の不自由な人の立場にたって今よりも深く物を考えることができると考えた。今の自分とは違う状況の人の状況を経験することにより、障がいのある人たちへの関心も深まり、関わっていきたいという意欲を喚起させることができると考えた。(手立て1-③)

四つ目は、であう段階において障害のある人と出合わせる。疑似体験をさせるにあたり、車いすの使い方や点字の読み方打ち方について、普段それをしようしている人の話を聞いたりその人たちの思いや願いを聞いたりすることにより、その人たちの生き方に児童が触れることができる。人の生き方に触れることにより、児童に疑問や驚きを感じさせることができると考えた。疑問や驚きは次への学習への意欲へとつながると考えた。そして、その疑問や驚きを引き出して全体の課題を設定していく。(手立て1-④)

4. 単元計画 (36時間)

段階	学習活動と内容	教師の支援	配時
であう	1. 国語科の学習を振り返り、障害のある人に役立つものについて関心をもつ。 ○ 写真「点字ブロック」を見て K の町のやさしいところを話し合う。 ・点字ブロックがあって目の不自由な人にとってやさしい町 2. K の町のやさしさについて話し合う。 ○ K の町のやさしいところってどんなところか話し合う。 ・児童の安全を守ってくれる。(子ども達にとって) ・あいさつをしてくれる。(地域にすむ人にとって) ・掃除をしてくれる人がいる。(地域にすむ人にとって)	○ 児童が今後の学習に意欲をもって取り組むことができるように、国語科の学習を想起できるような発問をする。(手立て1-①) ○ 児童が目の不自由な人にとって点字はとても大切なものであることを想起できるような発問をする。 ○ 児童が校区内にも目の不自由な人にとって役に立つもの・大切なものがあるだろうと予想できるように、校区内にある「点字ブロック」の写真を提示する。	1
	3. 疑似体験 (車いす・アイマスク・点字体	○ 子ども達が「K の町」「やさしいところ」について視覚的にとらえることができるようにウェビングの手法を取り入れる。(手立て1-②)	2

	<p>験)に取り組み、障がいのある人と触れ合う。</p> <p>(1) 障がいのある人から車いすののり方、点字の読み方、打ち方について教えてもらう。</p> <p>(2) 障がいのある人から普段の生活の中での大変なことや楽しいことの話聞く。</p>	<p>○ 目の不自由な人や足の不自由な人の立場に立って物を考えることができるように疑似体験を仕組み、またその人たちの日常や思いに疑問を持たせ課題を設定させるために障がいのある人に話をしてもらう。</p> <p>○ 障がいのある人には、日常生活において楽しいことや苦勞していることを話してもらう。(手立て1-④)</p>	4
つかむ	<p>4. 課題をつくる。</p> <p>(1) 疑似体験をしたことや障害のある人の話を聞いた感想から課題をつくる。 (課題)</p> <div data-bbox="248 808 785 907" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>K の町は障がいのある人にとってどんなところがやさしいだろうか。</p> </div> <p>(2) 調べる視点を個人で決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 点字がどんなところにあるか調べよう。 ・ お店は障がいのある人でも買い物がしやすいようにどんな工夫がなされているか調べよう。 ・ 学校は車いすの人が過ごしやすいようにどんな工夫がなされているか調べよう。 ・ 点字ブロックはなんのためにあるのか調べよう。そしてそれは K 校区的どこにあるか調べよう。 ・ ○○さんがすんでいるところのやさしいところはどんなところだろうか。 <p>(3) 視点別にグループをつくり、今後の計画を立てる。</p>	<p>○ 児童が視点を決めることができるように、課題に対する予想を立てさせ、理由を話し合わせる。</p>	1 本 時
さぐる	<p>5. 課題に沿って調べる。</p> <p>(1) 課題にそってグループに分かれ、調べる計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何を ・ いつ ・ どこで ・ どのように 	<p>○ 調べていく中で、やさしくない面(点字ブロックの上に自転車が置いてあるなど)を見つけられる。その疑問は大切に、生かす段階につなげる。</p> <p>○ 実際に町に出て調べるときには写真を</p>	2 8

<p>ひろげ る</p> <p>いか す</p>	<p>(2) 課題にそって調べる。 (3) 調べたことをまとめる。</p> <p>6. 調べたことをもとに（課題）について話し合い、発表する。 (1) 同質グループで調べたことや考えたことについて話し合う。 (2) 各グループの発表から、それぞれの調べたことや考えたことについて話し合う。</p> <p>7. K の町のいろいろな人にとってどんなところがやさしいのか、今まで学習してきたことを生かし考える。 (1) お年寄りにとってやさしい町について考える。 ○ 3年生の時の学習で交流したお年寄りのサークルのことを想起する。 ○ 校区内の病院に隣接しているデイケアセンターのお年寄りと交流する。 (2) 子どもにとってやさしい町について考える。 ○ 自分達の安全を守ってくれている大人のことについて調べたり話し合ったりする。</p> <p>8. K の町のやさしいところについて今まで調べてきたことをまとめ、発信する。</p>	<p>とるなどして資料を確実にとるように助言する。</p> <p>○ 伝える相手にとってわかりやすいようにまとめるために、写真資料や地図資料などを効果的に活用するとよいことを助言する。</p> <p>○ 「調べる前の考え」「調べてきた事実」「その事実から思ったこと・考えたこと」「調べた後の変容した自分の考え」を明確にしながら発表をすると相手にわかりやすく伝わることを助言する。 また、国語科「伝え合うということ」で学んだ発表の仕方が生かされるように国語科で使用した掲示物を提示する。</p> <p>○ 今まで学習してきたことを生かし、いろいろな人にとってのやさしい町について考えることができるように、今までの学習の流れ図を提示する。</p> <p>○ 児童（自分達）にとってやさしい町、お年寄りにとってやさしい町などについて考えることができるような発問をする。</p> <p>○ お年寄りにとってやさしい町を考えるときに、3年生のときに交流した「まめの木の会」を想起させたり校区内にあるデイケアセンターについて関心を持たせたりする。</p>	<p>4</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>4</p> <p>2</p> <p>4</p>
----------------------------------	--	---	---

5. 本時 平成19年10月4日(木) 4年3組教室

6. 本時目標

- 今後の学習で意欲的に調べたいと思うようになる。
- 今までの学習の感想から課題を設定し、調べる視点(個人の課題)を設定することができる。

7. 本時の考え方

本時は疑似体験を終えた後の時間であり、その感想を出し合い、話し合いを進める中でクラスの課題を設定し、その後調べる視点(個人の課題)を設定することがねらいである。

クラスの課題を設定するために、次のような手立てをとる。初めに、イメージマップから「Kの町はやさしいのかな?」と思わせるために、色分けして視覚的に見やすくする。

次に、疑似体験での「大変そうだ」「苦労しているんだ」という感想から、「そうではなかったんだ。体の不自由な人は不便だと思うことがあっても、不幸ではないんだ」と思わせるためにゲストティーチャーからの言葉を紹介する。そして、ゲストティーチャーのように体の不自由な人がK校区にいるとしたら、その人たちにとって、K校区がやさしい町なのかという疑問を抱かせ、課題をつくらせる。

調べる視点を設定するにあたり、児童それぞれが明確に自分の課題としてもつことができるように次のような手立てをうつ。クラスの課題に対して(やさしい、やさしくない、わからない)という予想を立てさせ理由を考えさせる。理由を話し合わせる中で、調べる視点を明確にさせる。

8. 展開

配時	学習活動と内容	教師の支援	
10	1. 今までの学習を振り返り、本時のめあてを知る。 <table border="1" data-bbox="220 1193 842 1283"><tr><td>めあて みんなで話し合ったことから課題をつくらう。</td></tr></table>	めあて みんなで話し合ったことから課題をつくらう。	
めあて みんなで話し合ったことから課題をつくらう。			
⑤	(1) イメージマップを見て、障がいがある人にとってKの町のやさしいところについて話し合う。 ・ 障がいがある人にとってやさしいところはたくさんあったけど、Kの町じゃないところが多いね。 ・ Kの町のやさしいところは少ないのかな?	○ イメージマップでは、障がいのある人にとってやさしいとはどんなことなのかを、児童の既習知識で表している。その中から、児童が学習する場であるK校区に視点をもってくことができるために、イメージマップの中でK校区に関するものだけに色をつけて視覚的に分かり易くする。	
⑤	(2) 疑似体験の感想を出し合って、障がいがある人の思いなどについて話し合う。 ・ ぼくは、目が見えないと怖くて歩けなかったよ。 ・ 車いすは、段差があると怖かった。 ・ 目の不自由な人は普段の生活が大変だろうな。苦労しているんだろうな。	○ 障がいのある人の立場に立って考えることができるために、「目が不自由で大変だ。」「車いすの人はどこにでもいけなくて苦労しているだろう。」という感想をもっている児童に発表を促す。 ○ ここで出た疑問も板書しておき、後の課題づくりや視点づくりの時に想起させる。	

<p>10</p>	<p>2. 疑似体験の時に会った、M先生のお話を教師から聞く。</p> <p>(1) 児童の疑問に答えくださっているゲストティーチャーの話を教師から聞く。</p> <p>(2) 感想を出し合う。</p>	<p>○ 疑似体験の感想では、目が不自由な人はどうやって生活しているのだろうか? というような疑問がたくさんあったので、それについてゲストティーチャーで全盲の方に答えてもらったことを児童に知らせる。</p>
<p>5</p>	<p>3. イメージマップの話し合いの結果とゲストティーチャーの話から課題をつくる。</p>	<p>○ 課題を設定するために、イメージマップの「Kの町のやさしいところは少ないかも」とゲストティーチャーの話の「ゲストティーチャーが住んでいるところはやさしいところも困っているところもある。」に視点をもっていけるような発問をし、自分達のすんでいる町はどうなのかということを児童が考えることができるようにする。</p>
<p>10</p>	<p>課題 Kの町は体の不自由な人にとってやさしい町だろうか?</p> <p>4. 課題を解決するための視点を個人で考える。</p> <p>(1) 課題に対する予想とその理由と分からないことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やさしいと思う。スーパーに点字ブロックがあったから。 ・ やさしくないと思う。車いすだったら公園で遊べないから。 ・ どっちかわからない。点字ブロックがどのくらいあるのか分からないから。 <p>(2) 予想とその理由と疑問から調べる視点（個人の課題）を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 点字ブロックはどんなところにあるだろうか。 ・ 点字はどんなところにあるだろうか。 ・ お店は車いすの人でも買い物ができるようにしてあるだろうか。 ・ 学校は車いすの人が過ごしやすいようにどんな工夫がなされているだろうか。 ・ 車いすの人は公園で遊べるようになっていだろうか ・ 公民館では、障がいのある人にとってどんなやさしいところがあるだろうか。 	<p>○ 児童が自分の調べたいことを明確にするために、課題に対する予想（やさしい、やさしくない、わからない）を話し合わせる。予想が立て易いようなプリントを用意する。</p> <p>その際、課題に対して主体的に考える態度を身に付けることができるように、どうしてその予想を立てたかの理由を言うように助言する。</p> <p>○ 今後の調べ学習を意欲的に始めることができるように、調べる視点は、具体的に決めるとよいことを助言する。</p>
<p>5</p>	<p>5. 今日の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。</p>	